

(本リリースは、現地時間6月27日午前10時30分にロンドン、および同日9時30分にニューヨークにて発表されたものの日本版です。日本市場に関する情報が追加されています。)

メリルリンチとキャップジェミニが共同で
第11回 ワールド・ウェルス・レポートを発表

**世界の富裕層個人の保有資産残高は、37.2兆米ドルに成長
- 7年ぶりに二桁の増加率を記録**

**富裕層個人の世界人口は、950万人に増加;
シンガポールとインドが最大の増加率を記録、日本は5.1%の増加**

東京 2007年6月28日 – メリルリンチとキャップジェミニは本日、第11回年次ワールド・ウェルス・レポート(以下WWR)を発表した。WWRによると、世界経済の力強い成長を原動力に、2006年一年間において世界の富裕層個人¹の保有資産残高は11.4%増加し、37兆2,000億米ドルに達した。また、世界の富裕層個人の人口は、2006年一年間において8.3%増加し、950万人に達した。同年における超富裕層個人²は11.3%増加し、94,970人となった。

新興諸国経済は、国内における順調な富裕層人口の拡大、および高リスク市場への堅調な資金流入に支えられ、2006年においてその力強さを証明した。富裕層人口の増加率で最大の伸びを示した国はシンガポールおよびインドであり、2006年一年間でそれぞれ21.2%、

¹ 主な居住用不動産を除いて、最低100万米ドル以上の純資産を保有する個人

² 主な居住用不動産を除いて、最低3,000万米ドル以上の純資産を保有する個人

20.5%を示している。WWR は、成熟経済諸国の経済成長がより緩やかになることから、2007 年の世界の経済成長は鈍化すると予想している。

戦後最大の景気拡大期に入っている日本においては、2006 年に富裕層個人の人口は 5.1% 増加し、147 万 7,000 人となった。昨年を上回る増加率を達成した要因として WWR は、景気拡大の継続に加え、2006 年に初めて米国の件数を上回る IPO が行なわれたことや、日本企業における成長を目的とした M&A の積極化などのビジネス環境の好転を挙げている。

グローバル経済は新たな高みに到達

富の創出における 2 つの主な要因である実質国内総生産 (GDP) および時価総額の増加率は、ともに 2006 年中にその成長を加速したことで、世界の富裕層人口、及び彼らが保有する資産残高の増加に寄与した。2003 年および 2004 年とほぼ同等の数字を記録した 2006 年の世界の経済的付加価値の創出は、世界で各地域の中でもっとも高い成長を果たした新興経済諸国によって牽引された。例えば中国、およびインドの 2006 年の実質 GDP 成長は年率で、それぞれ 10.5%、8.8% を維持している。

2006 年の世界の時価総額は、堅調な企業収益、活発な IPO、及び継続的な海外からの投資によって支えられた欧州、アジア太平洋、及びラテン・アメリカ地域において急速に増加した。パフォーマンスにはばらつきはあるものの、ダウ・ジョーンズ・ワールド・インデックスが 2006 年に 16.4% 上昇したように、ほぼ全ての世界の主要指標が上昇している。

ロバート J. マッキャン、メリルリンチ個人顧客部門社長は、「今年のレポートでは、シンガポールおよびインドにおいて目覚ましい富の創出があるなど、2006 年も富裕層人口およびその保有資産残高はともに世界で拡大したことが確認された。世界における昨今の富の創出のレベルの高さは、ウェルス・マネジメント会社に巨大な事業機会を提供するとともに、そこで成功する会社になるには、かつて無いほど多様化が進んだ今日の洗練された個人顧客のニーズに応えるサービスモデルを提供できる会社になることが必要だ。」と述べた。

新興経済諸国が集団から抜け出す

BRIC 諸国 (ブラジル、ロシア、インド、中国) が引き続き、2006 年もグローバル経済の中で一層重要な役割を演じている。インド、ロシア、中国は富裕層人口の伸び率で世界トップ 10 に

入っている。ロシアの富裕層人口は 15.5%の上昇で、中国は 7.8%の上昇となった。ブラジルも引き続き、国内の個人需要、および競争力の高いサービス部門と製造部門を基盤とした強さを示した。

ラテン・アメリカ地域は 2006 年に実質 GDP 成長で 4.8%を達成し、海外から多額の直接投資を受け入れている。同地域の富裕層人口は 2006 年に 10.2%上昇しており、世界平均の 8.3%の増加率を凌いでいる。

中東地域は富裕層個人の間で富の拡散が起きた唯一の地域となった。石油の世界的な需要の高まりにより、2006 年における同地域の富裕層人口は 11.9%増加したものの、割高であった同地域の株式市場に調整が起きたことで時価総額が減少し、資産の蓄積を抑える結果となった。

バートランド・ラバイッシェ、キャップジェミニ・フィナンシャル・サービス、グループ・ディレクターは、「富の創出のグローバル化は一層加速した。もし 2005 年を富裕層個人の資産が国際的なファンド投資に流入した一年であったと特徴付けるなら、2006 年は新興経済圏が、海外からの直接投資、旺盛な国内需要および株式市場の上昇などにより大きく飛躍し、新しい時代の到来を告げた年と言えます。」と述べた。

不動産の魅力が深まる

2006 年、富裕層個人はオルタナティブ商品への配分を減らす一方、不動産投資を増やした。世界の不動産直接取引額は 2006 年に 6,820 億米ドルに達し、2005 年比で 38%増加した。不動産投資信託(REIT)が高いパフォーマンスを示したことで、投資対象としての選好度が高まった。オルタナティブ投資が引き続き、富裕層個人のポートフォリオの重要な構成要素であるものの、2006 年においては富裕層個人の同資産クラスへの配分には減少が見られた。

今回 WWR における初めての試みとして慈善活動への寄付についての調査をした結果、超富裕層個人を中心に 2006 年中に概算で総額 2,850 億米ドルの慈善目的の寄付が行なわれている。

WWR によると、富裕層個人による資産の世界的分散化傾向は 2006 年においても引き続き順調に拡大し、特に国際的な開発事業への関心の高まり、高水準の国際的ファンドの投資成績、およびリスク低減の観点などが原動力となっている。

将来の成長は穏やか

今後、安定的な経済成長率が定着するにつれ、米国をはじめとする成熟市場が世界経済の軸となることが予想される。各国の中央銀行により金融政策の引き締めが行なわれるならば、これまで成長を促進してきた主な要因である高い流動性の時代に終わりが来ることになる。また、アジアおよびラテンアメリカの成長率は、世界需要が減速するにつれ、鈍化すると予想される。

メリルリンチについて

メリルリンチは、世界 37 ヶ国・地域に拠点を擁し、顧客からの総預かり資産が約 1 兆 6,000 億ドルに上る世界有数の総合金融サービス会社である。幅広い資産クラスの証券、デリバティブの売買や引受けにおいて世界のリーダーとなっているほか、各国の企業、政府、機関投資家、個人などに戦略的アドバイザー・サービスを提供している世界有数の投資銀行である。また、メリルリンチはブラックロックの約 5 割を所有している。ブラックロックは世界最大級の上場資産運用会社であり、運用資産残高は 1 兆ドルを超える。メリルリンチの詳細については www.ml.com で知ることができる。

キャップジェミニについて

キャップジェミニは、産業界における豊富な経験、強化されたサービス体制、および金融業界向け次世代グローバル・デリバリーの 3 点で特徴付けられる会社です。キャップジェミニは 15,000 人のプロフェッショナルのネットワークを持って世界で 900 を超える顧客にサービスを提供しており、銀行、保険、投資銀行の各分野における有力なソリューションおよびベスト・プラクティスを用いて、ビジネスを前進させます。

コンサルティング、テクノロジー、及びアウトソーシング・サービスを提供する世界最先端の企業として、キャップジェミニは顧客がテクノロジーを通じて自らを変革し、業績を上げていくことを可能にします。コラボラティブ・ビジネス・エクスペリエンスと名付けた独自の手法を用いて、顧客が高水準の業績を達成する自由度を上げるための洞察や能力を提供します。2006 年の世

5 – World Wealth Report

界全体の通期収益は 77 億ユーロで、従業員数は 75,000 人。詳細は、
www.capgemini.com/financialservices をご覧ください。

記: 2007 年ワールド・ウェルス・レポートは、www.capgemini.com/worldwealthreport からダウンロードが可能です。

#